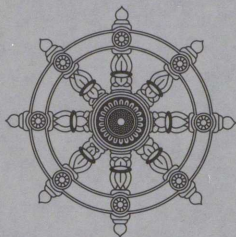


1961年1月16日第3種郵便物認可 1998年3月1日 第436号 (毎月1回1日発行1部50円)

(加盟団体関係者の講読料については、負担金に含まれている。)



全 仏

仏暦2541年3月
(1998年)

NO.436



新年懇親会で壇上に揃った新役員
(右より濱野堅照会長、岩田文有副会長、不破仁理事長)

財団法人 全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

理事会・評議員会開催

新会長に濱野堅照

真言宗
豊山派

管長



評議員会で挨拶する不破新理事長

本会の理事会・評議員会が、去る一月二九日午後二時から、リーガロイヤルホテル京都で開催された。会議では、任期満了に伴う会長・副会長の推戴、理事長をはじめとする役員を選出、さらに平成十年度の事業計画案や収支予算案等が審議された。

評議員会

議長に井桁雄弘師、議事録署名人に、壽山良知、鷺森了元の両師を選んで、議事に入った。
議案第一号「任期満了に伴う理事及び監事選出の件」

慣例に則り、理事・監事の選考委員会を設け、別室で協議の結果、別記の理事及び監事を選出した。

議案第二号「任期満了に伴う会長及び副会長推戴の件」

井桁議長より上程。昨年十二月三日に開催された「第二十三期会長・副会長推戴委員

会」の結果に基づき、別記の通り、会長・副会長の推戴を議決した。

議案第三号「平成十年度事業計画(案)について意見を求める件」

井桁議長より上程。田中総務部長が平成十年度事業計画案を朗読。原案賛成の意見が表明された。

議案第四号「平成十年度収支予算(案)について意見を求める件」

井桁議長より上程。鷺尾財務部長が、予算案の詳細を説明。原案賛成の意見が表明された。

理事会

横山敏明師を仮議長に、議事録署名人に成田有恒、楠宗親の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「任期満了に伴う理事長及び常務理事選出の件」

真宗大谷派の不破仁師を理事長に選出。不破理事長を議長に別記の常務理事を選出した。

議案第二号「任期満了に伴う会長及び副会長推戴の件」

不破議長より上程。昨年十二月三日に開催された「第二十三期会長・副会長推戴委員会」の結果に基づき、別記の通り、会長・副会長の推戴を議決した。

議案第三号「平成十年度事業計画(案)について承認を求める件」

不破議長より上程。田中総務部長が平成十年度事業計画案を朗読。原案通り承認された。議案第四号「平成十年度収支予算(案)」について承認を求める件」

不破議長より上程。鷲尾財務部長が、予算案の詳細を説明。原案通り承認された。

報告事項

議案審議が終了した後、以下の理事会・評議員会に共通する報告が行われた。

①ルンビニー委員会報告

川井ルンビニー委員長より、マヤ堂修復事業の現況が報告された。

②財団創立四〇周年記念事業並びに第三七回全日本仏教徒会議について

荒川事務総長より報告された。

③各種委員会委員の選任について

④事務総局各部報告
各担当部長より報告された。

懇親会

午後五時半から、同じりーガロイヤルホテル京都において、恒例の新年懇親会が開催された。

濱野堅照会長、不破仁理事長、高井隆秀前会長が挨拶した後、岩田文有副会長の発声で乾杯、しばしの間、二百人を超える出席者による、和やかな懇談がづづいた。

講演会



大村英昭師

午後四時過ぎから、大阪大学教授・大村英昭師による、記念講演が行われた。大村教授は、「官の仏教、野の仏教」というテーマで、約一時間にわたり、日本仏教における在家主義の伝統について熱弁を奮った。

『大正新脩大藏経』に関するご依頼

理事会・評議員会終了後、日本印度学仏教学会理事長・江島恵教東京大学教授より『大正新脩大藏経』テキストデータベース作成事業に関して、寄付のお願いが行われた。

これは『大正新脩大藏経』をコンピュータに入力して、インターネット等で利用出来るようにする事業だが、莫大な経費がかかるため、広く伝統仏教界全体に勧募を呼びかけたものである。

仏旗・バッチ

頒布御案内

- 大仏旗 たて一四〇cm×よこ二二〇cm 三三、〇〇〇円
- 中仏旗 たて九〇cm×よこ一三五cm 一八、〇〇〇円
- 小仏旗 たて七〇cm×よこ一〇〇cm 九、三〇〇円
- 手旗 たて三五cm×よこ五〇cm 八、〇〇〇円
- 法輪旗 たて九〇cm×よこ一三五cm 七、四〇〇円
- 仏旗バッチ 二cm×四・五cm 五〇〇円
- 法輪バッチ 直径一cm 一、〇〇〇円

お申し込み

全日本仏教会財務部

電話 〇三―三四三七―九二七五
FAX 〇三―三四三七―三二六〇

第23期

全日本仏教会役員

副会長に清水谷孝尚聖観音宗管長
奈良康明駒沢大学教授ら4名

会長 濱野 堅照 (真言宗智山派管長)
副会長 清水谷孝尚 (聖観音宗管長)

理事 河野 憲善 (時宗法主)
岩田 文有 (愛知県仏教会会長)
奈良 康明 (駒沢大学教授)

常務理事 不破 仁 (真宗大谷派)

理事 (評議員中の○印)
監事 (評議員中の○印)

評議員 (評議員中の○印)
◎乙川 良英 (曹洞宗)

◎森 和久 (曹洞宗)

◎横山 敏明 (曹洞宗)

◎洞外 文隆 (曹洞宗)

◎檀上 尚道 (曹洞宗)

◎淵 英徳 (曹洞宗)

◎葦原 正徳 (曹洞宗)

◎乙川 映元 (曹洞宗)

◎豊原 大成 (浄土真宗本願寺派)

◎北條 成之 (浄土真宗本願寺派)

◎日谷 周暎 (浄土真宗本願寺派)

◎武野 以徳 (浄土真宗本願寺派)

◎中岡 順孝 (浄土真宗本願寺派)

◎木下 慶心 (浄土真宗本願寺派)

◎川井 匡俊 (浄土宗)

◎白幡 憲佑 (浄土宗)

◎八木 季生 (浄土宗)

◎近藤 正也 (浄土宗)

◎野呂 幸進 (浄土宗)

◎北山 宏明 (浄土宗)

◎山口 定信 (浄土宗)

◎江口 祥文 (日蓮宗)

◎岩間 湛正 (日蓮宗)

◎渡邊 清明 (日蓮宗)

◎栗原 正震 (日蓮宗)

◎星 光諭 (日蓮宗)

◎齋藤 邦昭 (日蓮宗)

◎新居 祐政 (高野山真言宗)

◎田岡 照遍 (高野山真言宗)

◎川島 宏之 (高野山真言宗)

◎壽山 良知 (高野山真言宗)

◎服部 融直 (高野山真言宗)

◎安藤 正晃 (孝道教団)

◎秋好 正隆 (孝道教団)

◎山口 正戒 (孝道教団)

◎吉田 英哲 (和宗)

◎健代 和央 (和宗)

◎加藤 公俊 (和宗)

◎五十嵐意承 (聖観音宗)

◎網野 義紘 (聖観音宗)

◎法田 光順 (聖観音宗)

◎長谷川霊信 (念法真教)

◎桶屋 良祐 (念法真教)

◎仲田 順和 (真言宗醍醐派)

◎倉信 隆源 (真言宗御室派)

◎安藤 光淵 (真言宗高田派)

◎川崎 観隨 (西山浄土宗)

◎秦 正静 (真宗興正派)

◎山本 智丈 (黄檗宗)

◎虎山 秀禅 (臨濟宗南禅寺派)

◎東條 仁哲 (真言宗大鳴派)

◎別所 法山 (天台真盛宗)

◎六郷 信弘 (時宗)

◎永井 宗誠 (臨濟宗建長寺派)

◎原井 慈鳳 (法華宗本門流)

◎川端 照道 (真宗仏光寺派)

◎五十嵐隆明 (浄土宗西山禅林寺派)

◎青木 謙整 (臨濟宗東福寺派)

◎廣安 俊道 (真言宗大覚寺派)

◎森田 昭光 (融通念佛宗)

◎高野 日豊 (本門佛立宗)

◎畔柳 正顕 (浄土宗西山深草派)

◎榎原 禅澄 (真言宗善通寺派)

◎中山 昭夫 (顯本法華宗)

◎中村 元信 (新義真言宗)

◎小幡 蘭谷 (臨濟宗円覚寺派)

◎高田 信昭 (真宗木辺派)

阪神・淡路大震災三周年追悼行事

阪神・淡路大震災から三周年目の一月十七日、神戸を中心に被災地では様々な追悼行事が行われた。

昨年十月十五日、財団創立四十周年記念事業の一環として、真言宗大本山須磨寺境内に本会が建立した追悼碑の前では、小池貫主を導師に須磨寺有縁の僧侶が般若心経等を読誦。本会からは田中総務部長らが参列し焼香を行い、多くの人々が犠牲者の冥福を祈った。

また神戸市兵庫区の湊川公園では、(社)神戸青年仏教徒主催、全日本仏教青年会共催、全日本仏教会協賛のもと、



須磨寺追悼碑前での法要



湊川公園での宗教者の集い

「阪神・淡路大震災追悼供養」が行われた。

午前十時より、公園中央に設けられたテントを中心に、神戸青年仏教徒会、臨濟宗、法華宗、真言宗、浄土宗の順に追悼法要が修行された。また、この行事には市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会が協賛。会場では参加者対象にバザーや飲食物の接待なども行われた。

また、午後二時半から同所で、仏教神道、キリスト教の有志ら多くが集い、「震災を生きる宗教者による神戸メッセージ」を発表した。その中では、宗教者が宗教の壁を超え、共に震災からの復興を歩む中で、一つになること。そして新しい世界を共に創って行くことが宣言され、拍手のもと採択された。

- 小林 慶存 (天台寺門宗)
- 吉田 研宏 (法華宗真門流)
- 土屋 善敬 (法華宗陣門流)
- 佐伯 龍幸 (真言律宗)
- 平野 映哉 (真言宗泉涌寺派)
- 橋本 聖圓 (華嚴宗)
- 安田 映胤 (法相宗)
- 堀木 教恩 (律宗)
- 大野 玄妙 (聖徳宗)
- 吉井 恵貫 (真言宗須磨寺派)
- 九野 純孝 (妙見宗)
- 国定 浄運 (真言三寶宗)
- 村主 康瑞 (真言宗中山寺派)
- 大嶋 俊明 (北海道仏教会連盟)
- 宿野 彰心 (同)
- 黒滝 信行 (青森県仏教会)
- 吉田 公雄 (岩手県仏教会)
- 寺島 彦宗 (福島県仏教会)
- 鷲森 了元 (茨城県仏教会)
- 高木 敏了 (栃木県仏教会)
- 過外 一雄 (群馬県仏教会連合会)
- 江連 俊則 (埼玉県仏教会)
- 萩野 映明 (同)
- 長瀬 日還 (千葉県仏教会)
- 山田 勝義 (同)
- 白川 謙敬 (東京都仏教連合会)
- 加藤 隆宣 (同)
- 垣内 善勝 (同)
- 小崎 龍雄 (神奈川県仏教会)
- 本間 孝康 (同)
- 和田 大雅 (同)
- ▽中村 啓識 (新潟県仏教会)
- 高山 芳文 (石川県仏教会)
- 松山 成慶 (福井県仏教会)
- 石川 養正 (山梨県仏教会)
- 山口 祐哉 (長野県仏教会)
- 加納 博司 (岐阜県仏教会)
- 佐々木舜峰 (同)
- 佐々木盛英 (静岡県仏教会)
- 安田 文生 (同)
- 玉井 康之 (愛知県仏教会)
- 近藤 真道 (同)
- 岡田 泰成 (同)
- 吉水 哲應 (滋賀県仏教会)
- 長澤 香静 (京都仏教会)
- 津田 清章 (京都府仏教連合会)
- 増田 貞圓 (大阪府仏教会)
- 井桁 雄弘 (同)
- 高見 寛康 (兵庫県仏教会)
- 市村 隆玄 (同)
- 垣内 浩龍 (和歌山県仏教会)
- 三谷 恵仙 (鳥取県仏教連合会)
- 三明 慶泉 (島根県仏教会)
- 貫名 日諦 (岡山県仏教会)
- 大西 智城 (徳島県仏教会)
- 立岡 光観 (香川県仏教会)
- 川井 甫孝 (愛媛県仏教会)
- 島田 定信 (高知県仏教会)
- 志鶴 秀邦 (福岡県仏教連合会)
- 弘中 誠之 (宮崎県仏教連合会)
- 名幸 俊海 (沖縄県仏教会)
- ▽島田喜久子 (全日本仏教婦人連盟)
- 矢坂 誠徳 (全日本仏教青年会)
- 逸見 道郎 (国際仏教興隆協会)
- 上村 映雄 (日本仏教保育協会)
- 青木 新 (仏教振興財団)
- 鎌田 良昭 (東京フェイストクラブ)
- 沼田 智秀 (仏教伝道協会)

第三十六回 「業・旃陀羅問題」 に関する研究会

真言宗智山派の「見解」をめぐって

智山伝法院常勤講師 廣澤隆之

十二月一日午後一時から、真言宗智山派宗務庁会議室において、第三十六回「業・旃陀羅問題」に関する研究会が開催された。

智山伝法院常勤講師の廣澤隆之師が「真言宗智山派の『見解』をめぐって」のテーマで、要旨次のような発表を行った。

※ ※ ※

『「旃陀羅問題」をめぐって—真言宗智山派見解—』（真言宗智山派宗務庁発行 平成五年刊）は、高野山真言宗と真言宗豊山派の発表を承け、両派とは異なる見解も明確にするとの観点でまとめられたものである。自分も編集委員の一人として関わってきたが、今回は、私見を交えながら発表してみたい。

(一) 高野、豊山両派の見解では、空海に差別思想はなく、「平等思想」の持ち主である、とするが、これには大きな疑問がある。「平等」「個人の尊厳」「階級制度」に対する自覚

的反省は、西洋近代の自然法の観念によるもので、社会的権利が平等であるとするものがある。仏教の一切の存在が存在することにおいて、「平等」であることと、近代社会思想の「平等」では存在論的に決定的に異なる。したがって、空海のみならず、仏教には基本的に「平等」思想はないと考える。

(二) 空海の「時代の子」としての歴史的制約条件を考慮する。

(三) 空海思想の核である「曼荼羅」「即身成仏」などに差別克服の積極的な思想を読み込む。

(四) 「旃陀羅問題」に限れば、「旃陀羅」の語が解釈されたインドの精神風土と社会通念に妥協する大乘仏教の展開を視野に入れるべきである。無反省に大乘仏教を肯定的に評価する立場だけではなく、歴史的展開を批判的に見る視点も必要である。例えばヒンドゥー

社会との関係をどのように考えるべきなのか。とりわけヒンドゥーの神々を受け入れてきた密教はこの問題が深刻である。また、政治体制との関係、特に護国經典成立以後の密教と中国仏教を受け入れてきた日本の仏教の体質についての反省が必要であり、この問題は既成仏教教団全体に問われている。さらに、以上の問題が、政治的意図あるいは信条から問われるのではなく、仏教の信仰や教理に即して問われる必要がある。

智山派「見解」に関する私見として、大乘仏教はインドの階級差別思想が無意識（無反省）に反映しており、旃陀羅＝悪人との考えは大乘仏教において形成された観念である。悪人＝仏法に背く者、戒律に違反する者＝仏教で最も重視した殺生戒に違反する者、瞋恚という煩惱が強く他に対して暴力的な者＝殺生をしたり暴力的な旃陀羅のような者、このような旃陀羅＝悪人という「常識」によって『性霊集』の当該箇所は書かれていると推測できる。したがって『性霊集』における「旃陀羅悪人」は、空海の実撰ではなくとも差別表現である。問題は、殺生や瞋恚という「悪」が「旃陀羅」という特定の社会階級と重ね合わせてイメージされたことである。しばしば「旃陀羅」は「悪」の比喩的表現であり、特定の人を指していないとの言い逃れを耳にす

廣澤 隆之師



るが、比喩的に言うことの中に差別意識が露呈している。

ただし、空海はこの「旃陀羅」を特定の社会階級（階層）と結びつけることはしていない。彼は『性霊集』において数回「旃陀」の語を使用しているが、高野派の見解では、サンسكريットの検討をして、「旃陀」と「旃陀羅」は異なるから、空海は「旃陀羅」の語を使っていないとする。しかし、空海の語の使用法（曼荼羅を曼荼と略すなど）から、また、意味からして『性霊集』の「旃陀」は明らかに「旃陀羅」である。智山派見解にあるように、「無明の羅刹は亀鶴の命を斫（き）り、異滅の旃陀は蜉游の体を殺す」のように、羅刹と対語になっていることからして、社会

階級と重ね合わせるのではなく、旃陀羅を羅刹と同様の恐ろしい精霊的な存在とイメージし、暴悪的な精霊として旃陀羅は悪であることは常識として認めていたと思われる。さらに、旃陀羅＝悪＝五蘊仮和合の存在＝衆生という考えがあったと推測され、このような旃陀羅が救われるのが、即身成仏を説く真言密教の教えであると考える。

つぎに、旃陀羅問題と同時に問われるべき課題として「蝦夷」問題がある。空海にとって「旃陀羅」は自分が生きる社会に具体的にイメージ出来る存在ではなかったが、「蝦夷」は当時の政治社会問題として、具体的にイメージできた。「蝦夷」に対して空海は明らかに今日的には差別語といえる表現をしている。「蝦夷」に関する侮辱的・差別的表現は「戎狄」「毛人」「羽人」「毛夷」「羽狄」など、中華思想的立場での差別表現が目立つ。そして、「蝦夷」を律令体制外の文化の周縁を脅かす危険な異文化存在とみなし、それを排除しようとする差別思想になっている。「蝦夷」は「羅刹」の流にして人の儔に非ず（非人の儔なり）と述べ、「旃陀羅」と対に受け止められている暴悪で恐ろしい精霊的存在である「羅刹」がここでは具体的な社会的・文化的立場の人間をイメージしている。

異文化を排除しないで、自己の文化状況を

超えるエネルギーに転化する真言密教の曼荼羅の思想（例えば、不動明王や薬師如来の真言にそれが読みとれ、曼荼羅の多くの尊などの出自をたどるとそのことが言える）を実践しつつも、律令体制という社会的制約下での理想に矛盾する表現をおこなった。空海が反律令的な「山」に自己の実践の根拠を求めたことも、文化の中心と周縁のダイナミズムを考えるときに参考になる。そのような空海でありながら、なぜ「時代の子」としての制約を受けたのか、我々の問題は深刻である。

真言宗各派は、「旃陀羅問題」のように空海の真撰でない（学会の定説）箇所については、一応の意見表明をしたが、空海真撰であり、かつさらに差別的と思える「蝦夷」に関する記述については沈黙したままである。「見解」では、差別問題を単に護教的な立場から述べる（「旃陀羅問題」に限定すると、その傾向は強くなる）だけでは、我々にとつての差別問題の解決にはならないと考える。

日本仏教は、慈悲あるいは四摂事のような対他者的実践の理想をもちながら、なぜ社会的通念に妥協する仏教の歴史が展開し続けたのか。我々が、現代において社会問題に向かう思想的根拠をどのように「平等思想」でなく、仏教のオリジナルなものとして導くことができるのか、緊急の課題であると考える。

信教の自由に関する委員会

第二回信教の自由に関する委員会が、一月二十三日午後二時より、明照会館会議室で開催された。

今回は川崎泰資大谷女子短期大学教授を講師に迎え、「宗教と政治」をテーマに講演が行われた。



川崎氏は放送記者としての経験談を豊富に交えながら、最近の政治状況と宗教団体との関わりを分かりやすく解説した。

講演する川崎泰資氏

事務局録事

一月

- 八日 法律相談室
- 九日 局内会議
- 十三日 埼玉県佛教会新年会出席

- 十六日 自由民主党大会出席
- 十七日 阪神淡路大震災追悼法要参列
- 十九日 茨城県仏教会総会出席
- 二十日 同和委員会
- 二十一日 日宗連理事會
- 二十二日 法律相談室
- 二十三日 信教の自由に関する委員会局内会議

- 二十七日 全日本仏教婦人連盟修正会参列
- 二十八日 国際委員会
- 二十九日 ルンビニー委員会

- 二十九日 局内会議
- 評議員會
- 理事會

新年懇親會

二月

- 五日 局内會議
- 十二日 法律相談室
- 局内會議
- 十七日 同和委員會
- 二十日 局内會議
- 二十六日 法律相談室

哀 悼

成田芳髓師

一月二十二日、九十二歳で遷化
曹洞宗管長、大本山総持寺貫首

花まつりポスター

本会ではご覧のポスターを頒布しております。明るい春の野に静かに立って、天と地を指すお釈迦さまのお姿は、見る人のところに安らぎを与えることと思います。地域仏教会、幼稚園・保育園などで広くご利用ください。

- ◎タテ75cm×ヨコ52cm ◎多色刷
- ◎1枚 100円（送料実費ご負担ください）
- ◎なるべく早目にお申し込みください。間際のお申し込みですと4月8日に間に合わないことがあります。

全日本仏教会 花まつりポスター係

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり

